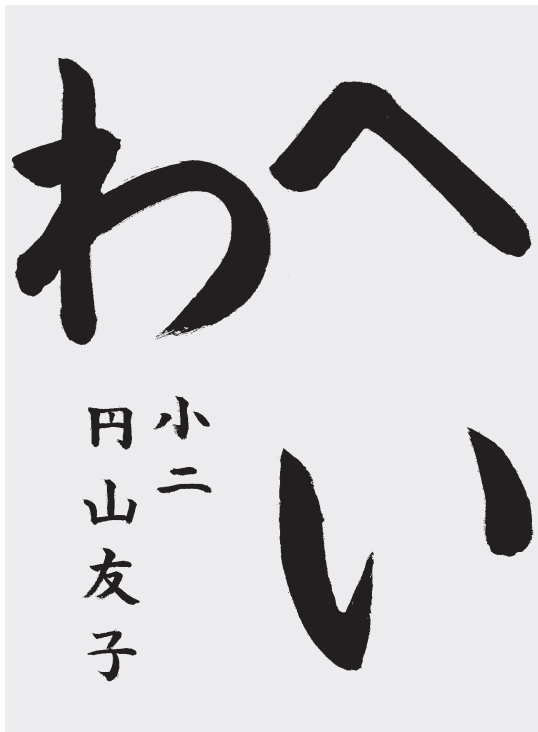


〔1月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

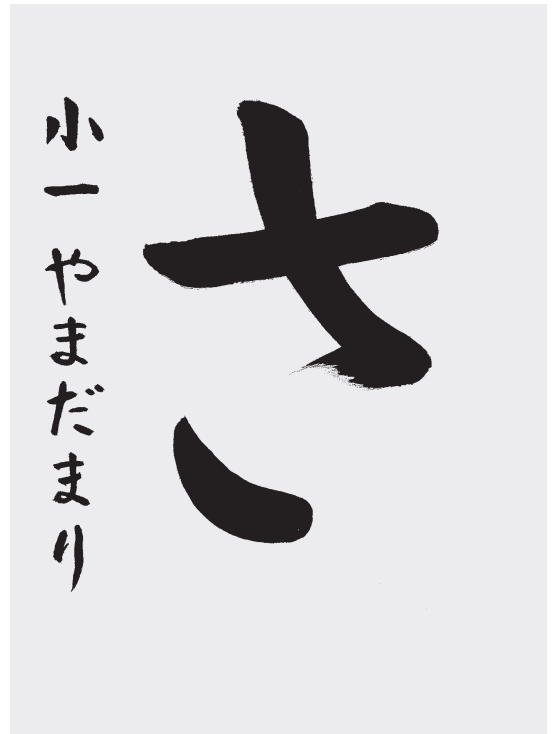


東 福 青 篁 先生

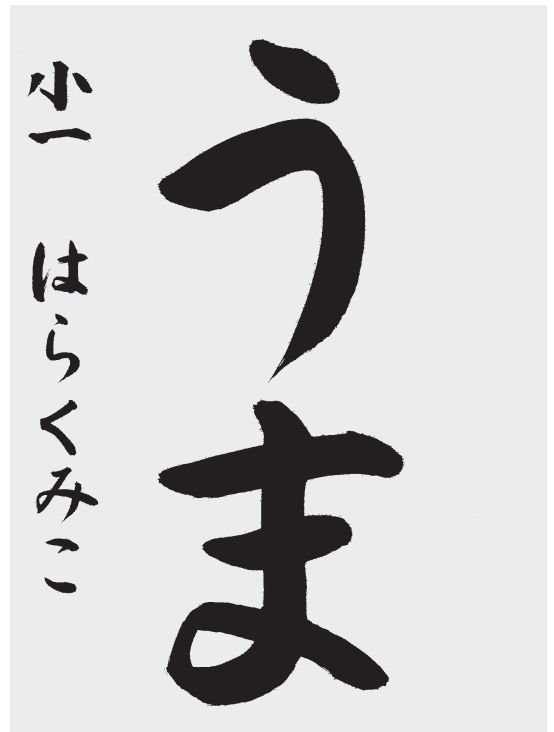


三 浦 鄭 街 先生

幼・小学1年参考手本



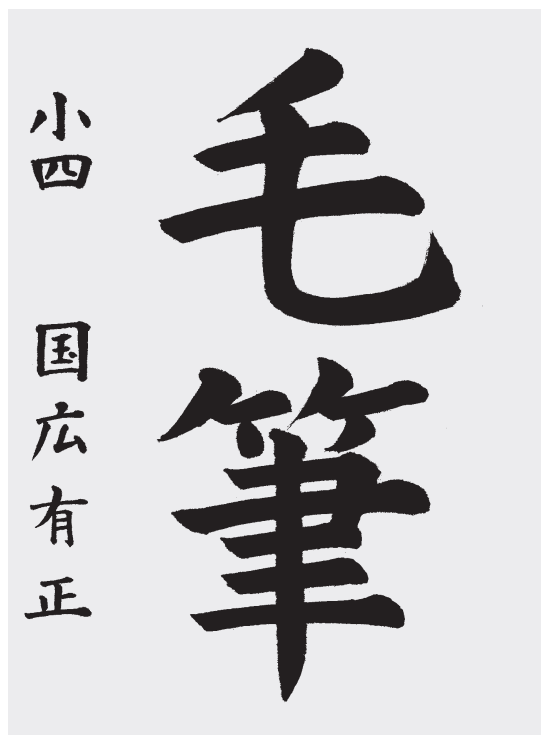
田 村 鄭 雲 先生



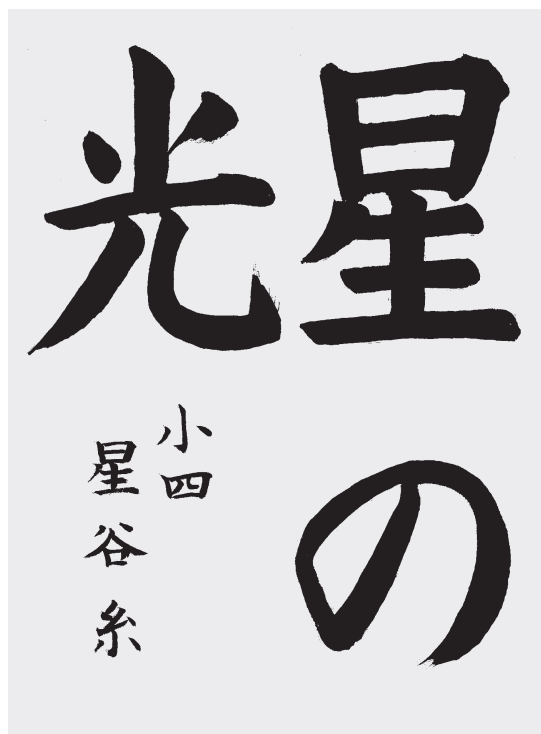
半 田 藤 扇 先生

〔1月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本



広瀬舟雲先生



坂本素雪先生

小学3年参考手本



川島舟錦先生



山口仙草先生

〔1月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本



西川翠嵐先生

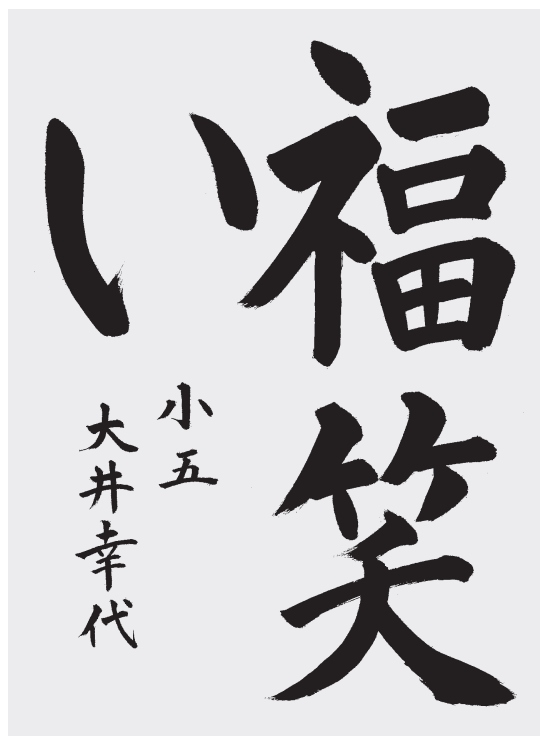


小竹石雲先生

小学5年参考手本



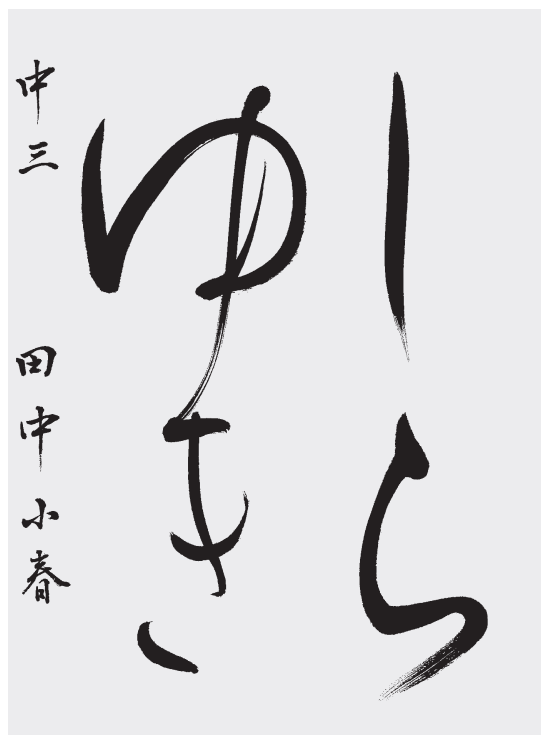
工藤永翠先生



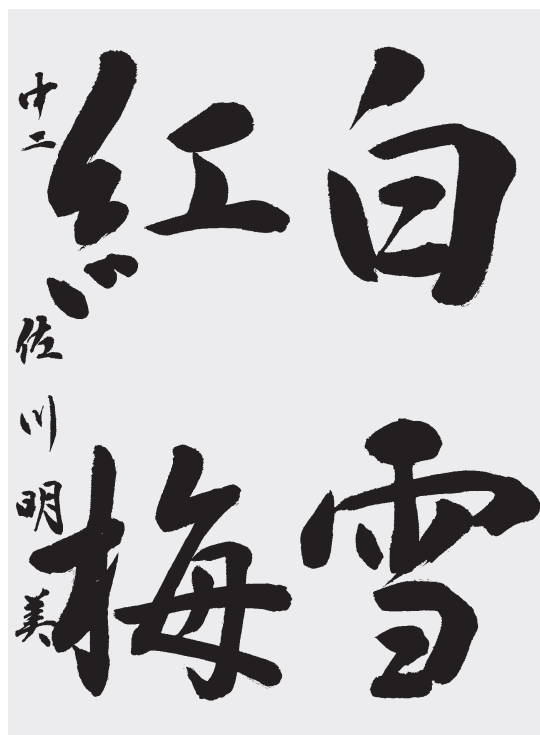
種谷萬城先生

〔1月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



平川峰子先生



辻元大雲先生



名越蒼竹先生



神秘（集字・拡大）

● 有名な古典こてんの名跡めいせきに挑戦してみよう

集字聖教序
（中国・東晋時代）
王羲之

発展〔中学生〕

※この課題は行書で書くこと。

○長い歴史の中で現代に伝わる中国や日本の優れた書のことを「古典の書」といい、古典の書を手本として書を学ぶことを「臨書」といいます。

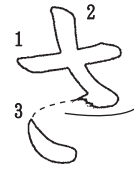
王羲之は、中国の歴史上の人物で最も書が優れているといわれ、王羲之の書を唐時代に集めて作られた「集字聖教序」は、行書を学ぶ手本として有名です。自然な運筆を意識し、太細の変化や筆脈に注目して臨書してみてください。

毛筆参考手本解説(1)

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。
ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

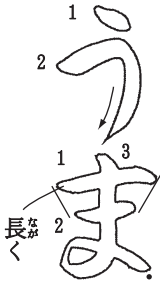
1年

つながるきもちで



〈七げん〉
左 右 上 下

さ(ゴ) さ(明)
ヤ(教)

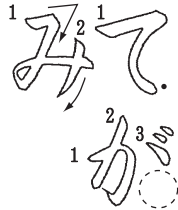


〈うげん〉 宇 宇 宇 宇 宇

末 末 末 末 末

うま(ゴ) うま(明) うま(教)

2年



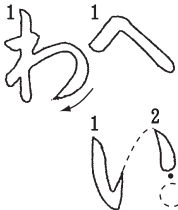
〈てげん〉

天 天 天 天 天

加 加 加 加 加

美 美 美 美 美

てがみ(ゴ) てがみ(明) てがみ(教)



〈わげん〉

部 部 部 部 部

以 以 以 以 以

和 和 和 和 和

へいわ(ゴ) へいわ(明) へいわ(教)

3年

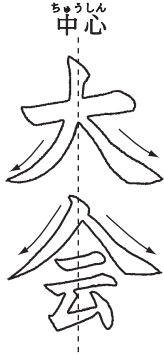


※筆順に注意して下さい
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

馬(ゴ) 馬(明) 馬(教)

馬(明)

馬(教)



中心

大会(ゴ)

大会(明)

大会(教)

一 十 大

ノ ハ ム 会 会 会

4年



長く

毛筆(ゴ)

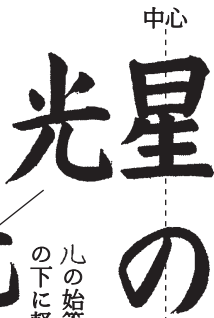
毛筆(明)

毛筆(教)

筆順

一 二 三 毛

毛 毛 毛 毛 毛



中心

星の光(ゴ)

星の光(明)

星の光(教)

筆順

日 日 日 日 日

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十



元の始筆は横画の下に軽く接する

5年



「力」は少し下げて組み立てる

働(ゴ)

働(明)

働(教)

筆順

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

等間隔に



中心

福笑い(ゴ)

福笑い(明)

福笑い(教)

筆順

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

〈許容〉
方向は
はなす

田

止め

毛筆参考手本解説(2)

6年

あける

中学

やさしい行書

湖水

湖水(ヨ)

湖水(明)

湖水教

〈筆順〉

シ汁沽湖湖湖

一才才水

等間隔に

中心
事始

事始め(ヨ)

事始め(明)

事始め(教)

〈筆順〉

一 耳 事 事

1 2 3
女 女 女 始 始 始

〈字源〉

女 女 女 女

点画の省略

紅 白 梅 雪

つながる気持ちで

〈筆順〉

ノ イ 白 白 白

二 千 雪 雪 雪

么 々 系 系 紅 紅

木 杵 杵 梅 梅

「し」をのびやかに払う

次につながる気持ちで

発展

「集字聖教序」

神 秘

のびやかにはらう

神

形の変化

「しめすへん」
「ネ」の行書

秘

形の変化

1 2 3 4 5
必

※「集字聖教序」ではこの筆順で書いています

ひらがなの字源 (410)

「国語科書写の理論と実践」
全国大学書写書道教育学会編より転載

字源	字	形
し	之	之
ら	良	ら
ゆ	由	ゆ
き	幾	き

※字源については、異字体から変遷したものに*印を付して()にその字体を記した。
※字形は古筆から抽出した。上段には字源に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

〔1月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小 学 2 年

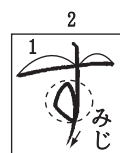
幼・小 学 1 年

支 部 名		と			
		う		あ	
段・級		ご		け	
		ざ		ま	
学 年		い		し	
	二	ま		て	
名 前		す。		お	
	木			め	
	下			で	
	る				
	い				

支 部 名		が			
		や		ま	
だん・きゅう		け		る	
		ま		い	
がくねん		し		お	
	一	た。		も	
な ま え				ち	
	小				
	山				
	カ				

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

硬 筆 参 考 手 本

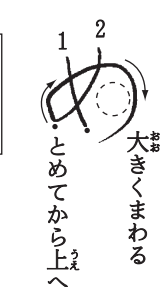


みじかく
はらう
むすびにちゅうい

す

す(教)

す(明)



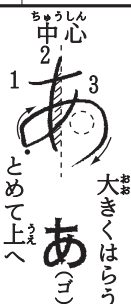
大きくまわる
とめてから上へ

め

め(教)

め(明)

め(ゴ)



大きくはらう
とめて上へ

あ

あ

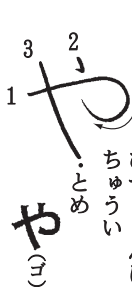
あ

あ(教)

あ(明)

あ(ゴ)

ひつじゅんにちゅういして、ただしくかきましよう。



ひつじゅんに
ちゅうい
とめ

や

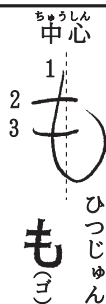
や

や

や(教)

や(明)

や(ゴ)



ひつじゅんにちゅうい

も

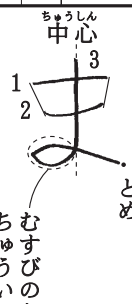
も

も

も(教)

も(明)

も(ゴ)



むすびのかたち
ちゅうい
とめ

ま

ま

ま

ま(教)

ま(明)

ま(ゴ)

「とめ」「はね」「はらい」にきをつけてかきましよう。

〔1月5日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小 学 4 年

小 学 3 年

支 部 名			
段・級			
学 年	四		
名 前	山根美月		

を	あ	山
見	る	の
上	み	駅
げ	は	の
ま	ら	向
し	し	こ
た	台	う
。	か	側
	ら	に
	星	

支 部 名			
段・級			
学 年	三		
名 前	高林有人		

大	広
会	い
を	教
し	室
ま	で
し	カ
た	ル
。	タ

中心
星
〈筆順〉
𠂇 𠂇 𠂇 𠂇 𠂇 𠂇
星(ヨ) 星(明) 星(教)

側
〈筆順〉
イ 𠂇 𠂇 𠂇 𠂇
側(教) 側(明) 側(ヨ)

駅
〈筆順〉
𠂇 𠂇 𠂇 𠂇 𠂇 𠂇
駅(ヨ) 駅(明) 駅(教)

字形を整えて、つりあいよく書きましょう。

室
〈筆順〉
𠂇 𠂇 𠂇 𠂇 𠂇 𠂇
室(教) 室(明) 室(ヨ)

教
〈筆順〉
𠂇 𠂇 𠂇 𠂇 𠂇 𠂇
教(教) 教(明) 教(ヨ)

広
〈筆順〉
𠂇 𠂇 𠂇 𠂇 𠂇 𠂇
広(教) 広(明) 広(ヨ)

分間をととのえて、正しく書きましょう。

〔1月5日締切課題〕

作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学 6 年

支 部 名									
段 ・ 級									
学 年									
六									
名 前									
鳥谷絵里花									

小学 5 年

支部名		安	け	
		心	ば	防
段・級		で		火
		き	い	設
学 年		ま	ざ	備
五		す	と	を
名 前		。	い	整
			う	え
			時	て
			に	お

文字の外形を見て、形を整えましょう。

点の位置に注意

〈筆順〉

言言訂訃誠誠誠
誠誠誠明誠誠教

中心

実

八面目の起筆は六面目から書く

〈筆順〉

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

中心

尊

長く

〈筆順〉

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

文字の組み立て方に注意して、字形を整えましょ
う。

防

〈筆順〉
① ㇿ 防 防 防

防(明) 防(教)

設

ニ 言言 訃 設 設
よこがでる
下がでる

設(明) 設(教)

整

中心
ㇾ 正 正
申束 敕 敕 整 整

整(明) 整(教)

〔1月5日締切課題〕

作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中 学 生 (行 書)

支 部 名	
段 ・ 級	
学 年	中二
名 前	牛田孝治

私たちは、故事成語をよく使う。

「矛盾」という言葉は、中国の

古い逸話がもとである。

中 学 生 (楷 書)

支 部 名	
段 ・ 級	
学 年	中二
名 前	牛田 孝治

私たちは、故事成語をよく使う。

「矛盾」という言葉は、中国の

古い逸話がもとである。

漢字を少し大きめに書きましょう。

「矛盾」という言葉は、

「そり」は長くする

筆順

中心
成

中心

成
(三)
成
(明)
成
(教)

最大幅にし上にそろす

筆順

葉

葉(コ) 葉(明) 葉(教)

〔許容〕
木止め
はね

止め はね 止め

・行書のワンポイントアドバイス

++ (くさかんむり) の行書

葉
(楷)
↓
葉
(行)

次の線につなげる気持ちで

私成話

葉私成話
(H)

これからの作品締切日と課題

令和8年3月号までの作品締切日と毛筆課題

中学生 (全学年共通)		小6	小5	小4	小3	小2	幼・小1	締切日	
三寒四温	名品(九成宮・集字)	発展	クレヨン	切手	金つち	ミルク	な	2月8日	2月
たけうま	東雲(九成宮・集字)	氷点下	最初	とりの声	土星	きもの	おに		
万里長城		公式戦	信念	竹ざいく	テレビ	もけい	み	3月9日	3月
しはらくは 花の上なる 月夜かな		世界地図	花だより	緑茶	白くま	おやつ	むれ		

2月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

小 5

行く	光バス	あす、
予定	で国会	見学の
です。	議事堂	ため観

幼・小1

ら		お
い		に
まし		を
た。		おい
		は

小 2

う、		は
長さ、		か
高さ。		っ
		て
		し
		ら
		べ
		よ

小 6

オリ	が二	冬の
オン	個の	夜、
座で	一等	目を
す。	星を	引く
	持つ	の

小 3

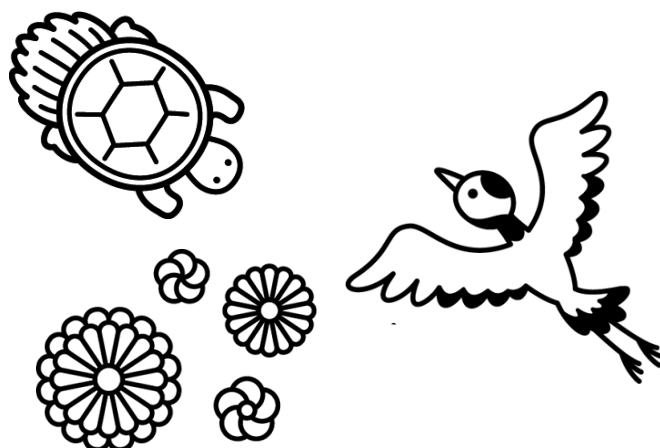
で		立
春		春
が		は
始		こ
ま		よ
る		み
日		の
で		上
す。		

中学生

二十	一	世	紀	の	今	日	に	お	い	て	国	際
的	な	会	議	で	は	、	英	語	が	重	要	な
役	割											
を	果	た	す	場	合	が	多	い				

小 4

家	取		学
に	り		校
か	組		で
ざ	ん		一
り	だ		生
ま	絵		け
し	と		ん
た	作		命
。	文		
	を		



書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

第106回 最近の郵便事情と前島密 ひそか

「書写」でお正月に関係するものというのと、一つが書初め、もう一つが年賀状です。年賀状（ハガキ）や封書の書き方は、日常生活をするうえで大切な知識として書写の教科書に掲載されています。昔の小・中学生は年賀状を書きながらハガキの表書きなどの書式を学びました。ところが近年、ラインやEメールの普及によって、最近の小・中学生は年賀状をあまり書かなくなりました。よってハガキや封書の表書きの書き方がよく分らないまま大人や大学生になっている者がいて困ります。郵便局で切手を買ったことはあるが、大きな封書を出した経験がないという学生がかなりいることが分ったので、社会人となつて恥をかかないよう多少でも経験を積んでもらうために、あえてA4判が入る少し大きな封筒に書写の提出物を入れて、私に手渡しではなく、切手を貼って郵便局から実際に私の研究室あてに郵送してみるという宿題を出したことがあります。重さによって料金が変わるので自分で秤を用いて重さを量って料金を調べることで、秤がない場合は、必ず郵便局の窓口に行つて出すことと指示したので、料金不足のものはありませんでした（差出人に戻されたものがあつたかどうかはわかりませんが）。しかし受講生が200人近くいると必ずこれを実施する訳を理解していない学生が幾人かいるのが常で、私の名前の下に「先生」や「様」という敬称ではなく、「宛」や「御中」と記されているものが届き苦笑してしまいました。若い頃、年賀状は、すべて手書きでいつも100枚は書いていました。宛名は小筆で書きました。文字をきれいに整えて書くとても練習になるのです。鍛錬と考へ一生懸命揮毫しました。今流行の宛名ラベルを用いるのは、書を同じく志す相手に対して失礼ということとで不可の時代でした。しかし現在では、裏面はパソコンを用いた印刷。表面は便利な宛名ラベルというものがかなり増えています。出さないより出すだけ……という時代になってきました。嘆かわしいことです。

ところで、我が国に欧米の進んだ郵便制度を取り入れ普及させた人物はご存じですか。今日では「日本近代郵便の父」と呼ばれる新潟県上越市出身の前島密（まえじま・ひそか）です。すでに我が国には飛脚という手紙を運ぶ制度がありましたが、さらに全国に届き、かつ全国均一料金の制度となる礎を作ったのでした。前島は、明治時代に全国に郵便局を作り、切手を作り、そして届けるという今日の郵便制度の基を作ったのでした。現在でも1円切手の画像は、前島の顔写真となっています。今年九月二十七日、私は、依頼された上越市展審査を終えた翌日、コシヒカリの穂が一面金色に実る田園地帯に建つ「前島記念館」へ連れて行ってくださいました。本年は、前島密生誕190年の記念年にあたり、翁のサミットなどいろいろなイベントが開催されている中で、私が訪れた前日には、前島翁を「祝う会」が盛大に開催されたとのことで、館長さんにご案内して頂けただけではなく、祝う会来場者に配布したという翁の顔が記された記念品を頂戴しました。入り口に翁の立派な銅像の建つ同記念館では、前島の生涯と業績が分りやすく紹介されていました。郵便だけではなく、江戸遷都・海運・通信・電話の開始・鉄道敷設の立案・教育にも多大な関わりを持って尽力した人であったことが分りました。まさに近代日本の礎を作った人といえましょう。早稲田大学の前身・東京専門学校創設者は大隈重信ということは有名ですが、第2代校長を引き継いだのが前島ということを知りました。郵便の父としてその業績が讃えられています。実に多才です。記念館隣に生前翁と盟友であった渋沢栄一が行書で記した巨大な「男爵前島密君生誕之處」という石碑が建立されていました。

年賀状を書いて出す人がこのところ減っています。書を志す人にとって書がうまくなるせっかくのチャンスを生かさないのはとてももったいないことと考えます。

今月のホープ



小六 梅内光里 (黒沢書の教室)

見た瞬間、文字が迫ってくるような生彩感を受けました。起筆終筆、きりっとした転折、名前まで一貫して見事な書きぶりです。



小三 後藤瑞貴 (若葉会)

正確な字形で丁寧な書きぶりです。本文・名前も素晴らしく調和がとれた作品です。

支那名	天心
段・級	
学 年	中二
氏 名	塚本杏梨

中一 塚本杏梨 (天心)

一本一本の線を確実に引いています。楷書の字形とひらがながよく調和して、作品としての仕上がりが絶妙です。

支那名	雲母
段・級	四
学 年	五
氏 名	山本早桜

小五 山本早桜 (雲母)

漢字の字間のとり方が大変素晴らしく、一字ずつ丁寧に書かれていて字形も見事で、全体のまとめが美しく上手です。

秋季昇段級試験最優秀作品



やや行意を含んだしなやかな線が個性的です。大らかで伸びのびとリズムよく運び、払いやハネも充実しています。

支部名	飛山
段・級	
学 年	中三
氏 名	目黒有希

秋の彼岸のころ真っ赤な花を咲かせるヒガンバナは、球根だけでふえる植物です。

かまえが大きく流麗なすばらしい行書の作品です。鍛錬した筆線が明るく全体に光彩を放っています。

中三 柳久保 昊 (和香塾)



一点一画心を込めて運筆した様子が感得出来ます。転折や払いも丁寧で美しい筆使いです。名前もしっかり整いました。

支部名	短歌と俳句は、日本
段・級	
学 年	六
氏 名	長谷川 稟

型の詩歌です。

字形がよく整いしっかりとした骨格で、明るくさわやかな線が大変魅力的な作品です。文字の中の白が輝いています。

小六 佐藤 亜衣 (竹の子書道教室)

小六 長谷川 稟 (芳蘭会)

書道芸術学生版⇒書道芸術（競書誌）移行手続きについて

中学３年生（４月締め切り作品から書道芸術への出品が可能となります。）

中学３年生 書道芸術学生版 ３月９日締め切りまで出品可能です。

高校１年生 書道芸術 ４月１５日締め切り（３月号掲載）から出品可能です。

「書道芸術」に出品するには
バーコード出品券の申請と購読届の提出が必要です。

申請用紙は、事務所までご請求ください。

※指定形式以外の申し込みは、お受けできません。

※４月１５日締め切りから出品希望の場合は、３月１０日までにご申請ください。

書道芸術（高校生以上の方対象）雑誌のご案内

書道芸術学生版の雑誌は中学校３年生までの競書雑誌になりますが、高校１年生からは、書道芸術（高校生以上の方対象）の競書雑誌があります。高校生になってからも、書道を続けたい中学３年生の方はぜひご参考になさってください。
見本誌もお送りすることができますので、興味を持った方は書道芸術院までお問い合わせください。



公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031

東京都千代田区東神田 1-16-7

東神田プラザビル 3階

TEL : 03-3862-1954

(10:00~16:00)

FAX : 03-3862-1957

書道芸術誌及び書道芸術学生版購読について

本誌の購読中止を希望される場合には必ず、書道芸術院事務所までご連絡ください。

連絡がないと本誌は三ヶ月間はそのまま送られていくことになります。誌代が未納入の場合でも扱いは同じです。必ず中止の連絡をお願い致します。

また、中止によって誌代に残金が生じた場合は返金を致します。この場合、返金額が3,000円に満たない時は同額分の切手をお送りしております。あわせてご了承ください。

よろしくお願いいたします。

書道芸術院事務所

冬期休暇のお知らせ

12月27日(土)～1月4日(日)

新年は1月5日(月)からです。

よろしくお願いいたします。

《バーコード出品券に関するご注意》

バーコード出品券を紛失された
場合は事務所に電話でご連絡
ください。

1月号の清書のしめきりは、

1月5日(月) 必着

おくれないようにお送りください。

尚、2月号の雑誌(1月5日締切バーコード出品券)
は、12月22日発送予定です。

公益財団法人 書道芸術院



幼・1年

な
小一 山ぐちいたる

おに
小一 いしたまこ

2年

クミル
小二 たなかゆい

のきも
小二 いわいちはや

3年

ち金づ
小三 川向のぐ

土星
小三 上田和子

4年

切手
小四 浅田香

のと声り
小四 山本 静

5年

ヨクンレ
小五 田中 小春

最初
小五 中山美子

6年

発展
小六 浅野香奈

氷点
小六 山口礼子

中学

名品
中一 政陽 詢

三寒四温
中二 山本 守

うたけ
中三 秋山 みや

編集余録

○秋季昇段級試験の最優秀作品と特待生に合格された方を紹介しました。また、審査長の下谷洋子先生より総評を頂きましたので、今後の学習の参考にしてください。皆さんの一層の上達を願っております。

○2026年（令和8年）の干支は「丙午（ひのえうま）」です。干支というと、「ね・うし・とら」から始まる「十二支」を思い起こしますが、本来は、「十干」と「十二支」を組み合わせた「十干十二支」を意味します。

「十干十二支」とは、十干と十二支を組み合わせて60通りの年号を作り出す古代中国で生まれた暦法です。十干は「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の10種類、十二支は「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」の12種類があり、順番に組み合わせます。2026年は十干の「丙（ひのえ）」と十二支の「午（うま）」が組み合わさった「丙午（ひのえ・うま）」の年で、60通りの中で43番目になります。

十干や十二支は、それぞれ独自の意味を持ち、丙（ひのえ）は、「火」の要素を持ち、太陽や明るさ、生命のエネルギーを表すといわれています。

午（うま）は、古くから人間とともに生きてきた動物で、駿足を持ち、独立心が強く、人を助けてくれる存在でもあります。

この2つの組み合わせである「丙午」の年は、「勢」とエネルギーに満ちて、活動的になる」と年といわれています。

（悠輝）